

地域福祉活動職員の

ま な こ

地域福祉活動推進のために

No.96

2024年 9月発行 福岡県地域福祉活動職員連絡会

会長【全県ブロック】

- ①荒木 裕太
(あらき ゆうた)
- ②久留米市社会福祉協議会
- ③10年目
- ④人との出会いが私の原動力です。県内社協職員の皆さんの参加と、想い・本音・叱咤激励をお待ちしております。



新役員紹介

5月31日(金)、福岡県地域福祉活動職員連絡会定期総会を実施しました。今年度の計画と併せて、各ブロックから役員が選出され、承認されました。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

- ①名前 ②社協名 ③経験年数 ④一言PR

監事

広川町社協/筑後ブロック 江口 信也さん
柳川市社協/筑後ブロック 藤木 健裕さん

副会長

- ①岩永 信輔
(いわなが しんすけ)
- ②福津市社会福祉協議会【福岡ブロック】
- ③9年目
- ④地職連役員として他の社協の皆様と意見を交わしながら、知見を深めることができることを楽しみにしています。



会計

- ①野尻 裕太
(のじり ゆうた)
- ②大川市社会福祉協議会【筑後ブロック】
- ③7年目
- ④全く違う業種から6年前に社協に入職しました。役員として地職連に恩返しができるよう精一杯努めてまいります。



- ①久永 椋介
(ひさなが りょうすけ)

- ②福岡市社会福祉協議会【福岡ブロック】
- ③4年目
- ④まだまだ未熟で役員を務まるのか不安もありますが、皆さんのお力を借り、精一杯頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



- ①吉田 文平
(よしだ ぶんぺい)

- ②嘉麻市社会福祉協議会【筑豊ブロック】
- ③3年目
- ④地職連に携わる方々の力をお借りし、よりよい活動づくり而努力していきたいと思いますので、2年間、どうぞよろしくお願いいたします。



- ①池崎 泰庸
(いけざき やすのぶ)

- ②朝倉市社会福祉協議会【両筑ブロック】
- ③2年目
- ④これから皆さんのお力を借りながら、一生懸命頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



- ①入江 和哉
(いりえ かずや)

- ②宮若市社会福祉協議会【筑豊ブロック】
- ③2年目
- ④若輩者ではございますが、地職連役員として皆様とともに実りある活動を行ってきたいと思います。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



新会長あいさつ

この度、地職連会長に就任いたしました、久留米市社会福祉協議会の荒木裕太と申します。

宿利前会長をはじめとした、歴代の錚々たる会長経験職員の皆さまのバトンを受け取る形になり、身が引き締まると同時に、私に務まるのかという不安があります。

今回、会長の任を受けることになった経緯は様々ありますが、ここでは二点に絞って記したいと思います。

一点目は、地職連への感謝です。社協に入職した一年目から参画し、公募枠やブロック枠での役員選任など、私の短い社協人生において、地職連との関わりは必要不可欠でした。そこで得た人脈と経験、学ばせてもらったスキルに叱咤激励など、私がワーカーとして進むべき道と、省みる道がこの地職連だと思っています。

その感謝を行動に移し、さらなるスキルアップを目指すために、

会長の任を引き受けることにしました。

二点目は、県内社協への刺激です。私をご存じの方なら分かるかと思いますが、荒木が会長をするという現実には危機感を感じていただきたいです。

まだまだ多くの経験豊かな職員がいるにも関わらず、皆さんが会長や役員の任を避けているように感じます。

皆さんは、地域住民やその役員方から、『次の担い手が少ない』という相談を受けたことはありませんか？その問いに対し、どのような支援や回答をされていますか？地域住民に対しては、『担い手の養成』『会の存続』『活動のやりがい』を伝えているのに、自分たち社協職員が形成した組織外組織になると、他人事のように捉えていますか？

荒木が会長になったという事実から、改めて社協職員としての地職連への参画を見つめ直していただければ幸いです。

結びになります。私はまだまだ

若輩者です。ぜひ皆さんも荒木を活用し、若手職員は自らの想いや意見を、同世代職員は本音を、監督・管理職は叱咤激励を、遺憾なく発信してもらえたらと思います。任期期間、役員一同尽力したいと思います。県内社協すべての職員の積極的かつ主体的な参画をよろしくお願いいたします。

総会后研修会

社協ワーカーの眼

～ワーカーたるものここに拘れ～

☆と き：令和6年5月31日(金)

☆ところ：リファレンス駅東ビル

☆参加者：53名



最前列、左から4人目より、パネラーの筑後市社協 卜部氏、久留米市社協 荒木氏、コーディネーターの志免町社協 宿利氏、パネラーの大川市社協 野尻氏、東峰村社協 中島氏

福岡県を代表する型にはまらない社協ワーカー四名がパネラーとして登壇しました。それぞれのワーカーが考える「福祉」「地域」「住民」「社協」を発表いただきました。発表内容を、フェイスブックに一部まとめておりますので、是非チェックしてください。

■報告 池崎泰庸／朝倉市社協

研修会参加者の声

ワーカーとしての、あるべき姿

福岡を代表するワーカーの皆さんの発言は金言ばかりで、「事業ベースで福祉の押し付けになっていないか。一人ひとり異なる幸せのカタチを応援・実現していくのが社協ワーカーの仕事である」、「私たちも家に帰れば地域住民。一人の住民としての感覚を持ち、地域を見ていく視点も必要」といった言葉に、普段の自身を照らし合わせ、ワーカーとしてあるべき姿について考えさせられました。

パネラーの皆さんの発言は、社協ワーカーとしての強い決意とこれまで型にはまらない方法で実践を積み上げてこられた経験に裏付けられていて、私自身も、ワーカーとしての拘りを持ちながらも、パネラーの皆さんのように住民のために固定観念を捨てられるワーカーでありたいと感じました。

(柳川市社協 藤木氏)



「地域のため」とは、誰のこと？

他市町村の社協職員、先輩方などのように地域福祉活動に関わっているのか、視野を広げて考えたいと思います。パネルディスカッションでは、各パネラーのお話に共通して、地域住民を一人の人として捉えることの大切さが語られていると感じました。

『地域のため』、『住民のため』とは、誰のことを指しているのか、日頃、私が地域福祉について伝えるときや考えるときに、具体的な

イメージを持ちながら行っているか、業務を見つめ直すきっかけになりました。また、ワーカーが支援を行う中で、ワーカー自身がその地域や住民を具体的に理解した上で支援を組み立てなければ、ワーカーにとつて都合のよい支援になる危険性や、負の介入になりかねないと感じました。

社協ワーカーとして働き始めてまだ二年目で、地域に何ができるのかとしばしば思い悩むことがあります。研修を通して私は地域に住んでいる人を知り、一緒に考え、寄り添える社協ワーカーを目指したいと思います。

(福岡市社協 重松氏)



社協職員が目指すべきワーカー像とは？

今回の研修で特に印象に残った言葉は、筑後市社協の卜部氏の『受援力』です。福祉教育に携わる上で、すべての住民が何かの当事者になるということを前提にした「あなたも助けてと言っていないんだよ」という『受援力向上教育』を行っているかを意識して携わりたいと思います。また、『受援力』は地域住民だけでなく、私たち社協職員にも必要な力ではないかと感じました。

研修の最後に名札カードに目指すべきワーカー像を記入しましたが、暗い表情のワーカーには地域の方々も相談しにくい、どんな状況でもどんなことも楽しめるワーカーを目指したいという気持ちから、『何事も楽しむ』社協職員と記入しました。

この先、立ち止まりそうになつたときや心が折れそうになつてしまふときなどは、何度も今回の研修の資料や、名札カードを見返して『何事も楽しんで』業務に向き合いたいと思います。

(須恵町社協 岩元氏)

特別寄稿 ～令和6年能登半島地震 被災地支援を振り返る①～

令和6年1月1日に発生し、甚大な被害をもたらした能登半島地震。本震災は遠く離れた私たち福岡県内にも大きな衝撃を与えました。

同じ社協職員として「力になれることはないか」と考えながらも、「慣れない寒冷地で衣食住の確保もできない中、かえって迷惑をかけてしまうのではないか」と自問自答する日々を過ごしていたように記憶しています。

このような中、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（通称：支援P）事務局から連絡を受け、福岡県内社協の有志による被災地支援が、およそ3か月にわたり行われました。

現地支援に至った経緯を踏まえ、今回の能登半島地震の支援について振り返りたいと思います。

■ 発災直後の想い ～私たちは何ができる～

遠方にいる福岡県の社協職員が「今、何ができるのか？」をテーマに有志で集まり、話し合いを重ねました。「同じ社協として何かできることはないか」「豪雨災害の恩返しの時ではないか」「今は冷静に情報収集・整理し、九州ブロックの派遣が来る時に備えて、力を蓄えておくべき」など、各々の意見が衝突することもありました。

■ 福岡ならではの支援体制 ～単発ではなく帯でつなげていく支援～

話し合いを続ける中、支援Pとして石川県域支援に入っているNPO法人にいがた災害ボランティアネットワークの李仁鉄理事長から連絡があり、奥能登地域の穴水町災害ボランティアセンターへの派遣が決定しました。「単発で支援に入っても意味がない」という共通認識から、1週間程度を期間としたクールを県内社協の有志で調整しました。「災害ボランティアセンターを設置運営した経験のある社協の者、または災害ボランティアセンターの運営支援の経験が豊富な者」でつなげることで、現地社協の力になれると考え、個別に声をかけました。

この派遣が行えたのも、地職連等を通じた出会いや日頃からの繋がりがあり、実現できたものと思っています。

■ 能登半島地震の支援を振り返る ～新たな出会いに感謝～

私たちは何かを成し遂げたと思いません。ただ、同じ社協職員が苦境に立っているときに、同じ社協職員だからこそできる寄り添いや、支えることが最も大切だと感じています。

本震災の支援でそのことができたかどうかは、各々で振り返りながら、被災地の生活再建・復興を、遠方からエールを送り続けます。



県内社協職員の主導による、久留米市での支援の様子

■ 穴水町災害ボランティアセンター派遣の有志

期 間	派 遣 者
2月20日～27日	大刀洗町社協 池松 昌亀
2月20日～27日	福津市社協 中島 浩
2月25日～3月3日	久留米市社協 荒木 裕太
3月2日～8日	小郡市社協 能塚 治一郎
3月6日～14日	うきは市社協 中川 史高
3月12日～24日	久留米市社協 古賀 公浩
3月22日～31日	須恵町社協 山内 機長
3月30日～4月7日	小郡市社協 能塚 治一郎
4月2日～10日	東峰村社協 和田 博

期 間	派 遣 者
4月6日～12日	大刀洗町社協 池松 昌亀
4月9日～17日	築上町社協 及川 泉
4月11日～18日	広川町社協 江口 信也
4月16日～24日	久留米市社協 荒木 裕太
4月18日～25日	うきは市社協 中川 史高
4月23日～30日	うきは市社協 國武 竜一
4月24日～5月1日	福津市社協 中島 浩
4月29日～5月6日	朝倉市社協 矢野 奈緒美
4月29日～5月6日	久留米市社協 寺島 妃呂子

(記：中島氏 福津市社協、荒木氏 /久留米市社協)

特別寄稿
被災地支援を振り返る②

前頁に掲載をしました、石川県穴水町の災害ボランティアセンター（以下…災害ボラセン）の支援を経験された県内社協職員13名の方の中から、4名の方へインタビューをさせて頂きました。内容は、

- ①被害映像を見て感じたこと
- ②支援に行く前に準備したこと
- ③被災地に入ってから、感じたこと
- ④支援を終えて、今感じていることの4点です。お忙しい中、本寄稿へのご協力ありがとうございました。

小郡市社会福祉協議会
事務局次長 能塚治一郎氏

①毎年お正月は、「自分の煩惱が満たされること」と「災害のない年に」と願いつつ、妻の実家で談笑していた際に震災の映像が流れ、子どもたちは絶句。

妻は「お父さん、行くことにならるの？」と。「行くにしても先の話になると思うよ」と答え、学芸員の義理兄は「文化財レスキューで現地に行くことになるだろうなあ」と話をしていました。

厳冬期に入る直前の北陸を襲った大震災。感じたことは「こりゃ大事（おおごと）」

②支援決定する前に、元竹田市社協の水野さんからアドバイスがありました。「今自分ができること、それは備え、必ずその時が来る！」と。優しい水野流アドバイスがあり、流石と思いました。

③様々な想定をして向かいましたが、ライフラインが復旧した後でしたので、思った以上に苦労はありませんでした。穴水町社協の皆さんが、快く受け入れてくださったことで、かなり気持ちが悪くなりました。

④被災地の皆さんには大変失礼ですが、災害支援に行くたびに、いろんな社協の皆さんと出会えること。特に、現地社協の皆さんと出会う、いろんな話しができたことは同じ社協職員として励みになります。

大刀洗町社会福祉協議会
地域福祉課課長 池松昌亀氏

①元旦というタイミングで、しかも奥能登であれば、陸からも海からも入ることができないという、隔離された状況のなかで、何らかの支援が必要な状況にあるということは把握できました。

ただし、この時点では現地に行つて災害ボラセンの支援に行く

ことになるとは微塵も思っていないませんでした。行くとしても九州ブロックからの派遣くらいしか想像はしていませんでした。

②基本的には、あまり準備を熱心に行わないタイプです。ただ、地域性や文化・産業・地名、社協が実施している事業等については頭に入れて臨みたいとは思っています。

ですが、事前にイメージしているものと現地に行つて感じるものは大きく違うので、決めつけにならない情報と迷惑をかけない物的準備しかしていません。

③今回の穴水町についての感想は「高齢者が多い」、「古い家屋はすべてと言つていいほど被害を受けている」、「システムはないのに地域力で乗り切っている」といった感じでした。

社協職員にしても、地元ボランティアにしても、自分の町のことをよく知っていて、なにはなくともつながっていく。これは簡単なことではない。それを無意識にできていく穴水町民は素敵だと感じました。

④失礼な言い方に聞こえるかもしれませんが、今回の地震がなければ

自分の人生の中で石川県の能登地方に行くことはまずなかったと思いますし、穴水町社協の方々も福岡県の社協職員と関わることはなかったと思います。

今回のようにたくさん福岡県内の社協の仲間と一緒にかわつてきた分、なにかあれば協力していきたいし、折角できたつながりを続けていきたいとは思っています。今回の穴水支援は、絶妙なタイミングとメンバーがそろったからできたことだと思っています。

これからは、できれば若いワーカーにこういったことをしてもらいたいと思います。「こんなこと、普通できないよ！」とか言われても、できちゃったんだからできないはずはないんです。

「自分の所属する社協だけでいいじゃん」なんて思っていたら、本当に困ったときにだれも手伝いは来てくれませんし、困っている自分のことを誰も理解してもらえません。

被災地に勉強に行つてはいけなと言われますが、行けば必ず自分の糧になります。それが被災地にとつてもプラスになるならば、現地の社協の支援に行くべきだと思います。ただし、求められるのであればですが。

久留米市社会福祉協議会
生活支援課 課長補佐 古賀公浩氏

①阪神淡路大震災の大規模火災、東日本大震災の大津波の映像が思い出され、多くの犠牲者が出るのではないかと感じました。同時に複数の市町で災害ボラセンが開設されるだろう、要請があれば、これまで、本市の災害ボラセン運営に多くの方々にご支援いただいたので、何らかの形で恩返ししたいと思っていました。

②まず、被災地支援に行く前に思ったことは、2つとして同じ災害はない(災害の種類、地域性、文化、被災地社協の体制など)ため、これまでの経験は通用しないのではないかと、自分は役に立てるのかということでした。

その上で、「自己完結すること」、「穴水町社協に迷惑と負担をかけること」を念頭に、天気の状態、ライフレインの状態、宿泊場所、食料等の確保、交通手段、穴水町の被害状況、ニーズ状況、災害ボラセンの運営状況などの情報を集めました。

③穴水町社協の職員は7名で、ほとんどの職員が発災時から休みなく働いていました。また、職員自

身も被災され避難所から通勤されている方や、親族が被災され、休みの日も片付けに行かれています方もおられました。

休みが休みになっていない状況を見ると、職員の方々の心身の状態が心配され、自分が支援に入っている期間は少しでも休みがとれるようにしたいと感じていました。(実際は、そう上手くいきませんでした)

災害ボラセンの運営支援に入ると、これまでの経験などで得た知識や方法などを提案する人がいますが、それこそが被災地のためにならないと思います。むしろ負担や不満を増やすだけにしかならないと改めて感じました。

④被災地支援を行う上で、「地元主体、被災者中心」という基本原則は、どの災害においても不変であると感じます。また、支援者の心構えとして必要なのは「責任」、不必要なのは、「変な使命感」

その上で、県内社協の有志で、単発ではなく細くても長く支援を続け、みんなが同じ想いでつないでいくという今回の方法は、穴水町の社協にとっては良かったのではないかと勝手に思っています。今回のような支援を行うにあたって、仲間、チームは必要であ

り、日ごろから他市町村の職員とつながっておくこと、社協職員の間でつながりや併せて、企業や各種団体等と関係を構築しておくことも必要であると思います。

被災地域の方々は、今もなお苦しい生活が続いており、災害ボラセンも活動を続けています。ニュースや報道等も現状を伝えることが減少しており、終わってないのに忘れられている現状があると思います。

石川県社協の若手職員が「被災地の現状を伝えたい」、「被災地で頑張っている支援者の活動を紹介したい」と発信しているフェイスブック「災害情報@いしかわ」があります。私たちのリアクションが、「勇気になる」とのこと、投稿にリアクションをしています。誰にでもできる応援の形だと思いますので、是非見て欲しいです。



災害情報@いしかわ
487「いいね!」・560フォロー
石川県社協の災害情報ページです。
「いいね!」
投稿 基本データ 写真 その他
詳細
1 ページ・ローカルウェブサイト
isk-shakyo.or.jp
★ まだ評価はありません(レビュー0件)

福津市社会福祉協議会
総務地域課 地域福祉係長 中島浩氏

①どの災害についても当てはまるのですが、「福津市で起きていたら、自分が、社協が、どう行動するか」と思いながら、テレビを見ているか。テレビやニュースサイトで情報を見ながら、被害の甚大さが明らかになって、自分が県内での災害のように現地支援に入ることはないだろう、九州プロックの派遣の日程が合えば行こう程度の受け止めでした。

そうは言いながらも、「自分に今できることは何か」を考え、遠方の私たちにできることは義援金・支援金だろうと思いつき、仕事初めの日から、市内各所に募金箱を設置しました。

②被災状況や支援者が準備しておくものなどは、現地報告や話し合いの中で確認しました。移動中に穴水町のことを調べながら現地に向かいました。

往復のチケットとレンタカーは確保できましたが、宿泊場所は初日しか確保できず、「あとは、現地です」という覚悟で、必要そうなものを詰め込んで現地に向かった感じです。

③ 大刀洗町社協の池松さんと先発隊ということで現地入りしました。穴水町に近づくにつれ、地震の被害の大きさが見えてきました。穴水町災害ボラセンに入ってから、最初に感じたことは、「社協の雰囲気があったかいいい」でした。今回は当初3月末までの派遣が続くということ、「迷惑なやつが来た」と思われぬように気を付けました。とにかく現地職員さんとのコミュニケーションには気を付けました。

現地に入ってから、マッチングを軸とした運営支援でしたので、行政区を現地社協の地図や現地巡回しながら確認して頭に叩き込みました。

被災された方と接する機会は少なかつたですが、被災日から想いを詠った俳句を拝見する機会があり、心境をうかがうことができました。

④ 2月末から5月のGWまでの、77日間、福岡県内の社協職員有志13名（延べ18名）でつないだというところに、県内社協間のつながりの強さを感じます。

話し合いの当初から集まった各自で、できる人ができることをしたから現地支援につながったのだと思います。



能登名産ワインで、被災地とつながる

左前より時計回りに、久留米市社協：荒木氏、うきは市社協：國武氏、福津市社協：中島氏、東峰村社協：和田氏、小郡市社協：能塚氏、大刀洗町社協：池松氏、うきは市社協：中川氏



穴水町災害ボラセンでの活動の様子

これも、平成29年の「北部九州の豪雨災害」や令和5年の「うきは市、久留米市の豪雨災害」でのミニサテの設置・運営等での協働もですが、平時の業務でも様々な場面で連絡を取り合い、コミュニケーションを取っている仲間だからできたのだと思います

～研修会のご案内①～

ノトトーーク！

～被災地支援を振り返るワーカーたち～

近年頻発する自然災害によって被災し、災害ボランティアセンターを設置・運営する社会福祉協議会の支援として、わたしたち職員は「応援職員」「派遣職員」として運営支援に携わることが多くあります。

わたしたち社会福祉協議会が「災害ボランティアセンターを運営する意義」は理解していると思いますが、「災害ボランティアセンターを運営する社協を支援する意義」の視点は果たして持ち合わせているのでしょうか。

本研修会では、その意義に視点を置き、令和6年能登半島地震で穴水町災害ボランティアセンターに支援者として入った社協ワーカーから、心構えを学ぶことを目的に開催いたします。

★と き：令和6年11月22日（金）10：30～17：00

★と ころ：福岡県内

★対 象：内容に関心のある県内職員・県外職員

※県内職員が優先です。県外からの参加の場合、別途負担金があります

★申し込み：詳細をFacebook、ホームページに掲載しますので、ご確認ください

～研修会のご案内②～ ※締切間近！！

人の心を動かす社協ワーカーに！

ネゴシエーション力(交渉力)向上研修

社協ワーカーは、地域福祉の推進を目的に多くの「人」と接しています。

また、地域には様々な方が暮らしています。社協ワーカーは多様な主体の参画のもと、より良い地域の実現のために、協働していくことが必要です。人それぞれ価値観も考え方も異なる地域の中で、ソーシャルワークの理念や価値の実現に向けて、「現状との異なり・差を縮める活動」ネゴシエーション(交渉)や「妥協点を見つける」折衝が、社協ワーカーに求められる場面もあるかと思えます。

そこで、本研修は社協ワーカーとして必要な交渉や折衝、さらには話し方等について、事例や演習を通して身に着けることを目的として開催します。

時 間	内 容
13:30～13:40 (10分)	開会、会長挨拶、趣旨説明
13:40～14:55 (75分)	講演：交渉に対する基本知識、交渉の進め方等
14:55～15:05 (10分)	休憩
15:05～15:55 (50分)	演習：ロールプレイング、交渉トレーニング
15:55～16:25 (30分)	さらに交渉力を高めるために
16:25～16:30 (5分)	閉会のことば
17:00～	情報交換会

◆と き：令和6年9月27日(金)13:30～16:30 / 17:00～ 情報交換会

◆と ころ：クローバープラザ 西棟 5階 セミナールーム B

◆講 師：株式会社 話し方教育センター 専任講師

◆対 象：内容に関心のある社協ワーカー (定員 60名)

◆申込方法：参加を希望される方は、情報交換会の出欠と併せて令和6年9月20日(金)17時までに二次元バーコードもしくは下記URLから Google フォームにてお申込みください

▶ <https://forms.gle/d6zWsfKHR3UzFinE9>



● 発行者：福岡県地域福祉活動職員連絡会

● 事務局

● 〒830-0027 福岡県久留米市長門石 1-1-34

● 久留米市社会福祉協議会 担当：荒木

● TEL: 0942-34-3035

● FAX: 0942-34-3090

● Mail: yaraki@heartful-volunteer.net

● H P: <http://f-chishokuren.org/>



▲HPはこちら

（Y
：り
）が
と
づ
ご
さ
い
ま
し
た
。力

あ感事のか間だビ当れほ無
りしが方げ達いユのもつ初
がまでにでやたー役歴と終
ととき支す関皆を員代しえ
づたてえ。係さ快さのてま
ご。いら改者んくまお
さ皆るれめの、受んま
いこなて方役けやな
まごたが、々員てイ編
し協をら多ののいん集
た。力実仕くお仲た夕担こ

編集後記